

令和6年度 芦屋市認知症地域支援推進員活動報告

1 認知症地域支援推進員： 6名

2 認知症地域支援推進員の役割

認知症の人への効果的な支援を行うために、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を担い、当該推進員を中心として、医療と介護の連携強化や地域における支援体制の構築を図ること。

	目 標	具体的活動
I	認知症当事者の居場所づくり	(1) あしやの会(認知症当事者の会)の開催検討 (2) 認知症当事者以外も含めた拠点づくり
II	認知症の人への支援体制構築に向けた関係機関との連携会議の開催	(1) 医療関係者との連携構築 (2) 若年性認知症の方の支援
III	認知症に関する正しい知識の普及啓発	(1) アルツハイマーデーイベント (2) ステップアップ講座開催 (3) 専門職向け研修

世界で一番住みたいまち
芦屋を目指して、
今後も取組を進めたいと
思います。



芦屋市で認知症とともに生きる方、認知症と診断された方、認知症かもしれないと不安な方、ともに生きる家族など、さまざまな方が利用できるサービスや制度を一覧表にまとめたものです。

私の思い、気持ちや希望	認知症になる前 （自分で暮らせる）	認知症になった （少し手助けがあれば暮らせる）	認知症が進んだ （日常的に手助けを受けながら暮らす）
私の思いや悩みを聴いてほしい	高齢者生活支援センター（認知症相談センター）		
からだの調子を診てほしい	認知症対応医療機関		
	認知症疾患医療センター		
	脳神経センター		
	認知症初期集中支援チーム		
元気なからだを維持したい	さわやか教室		
	介護予防センター		
	高齢者水浴開放事業		
仲間と語りたい	つどい場、	認知症カフェ、地域支え合い推進員	
自分のことは自分で決めたい	福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）		
	任意後見制度	成年後見制度	
もし、だまされたと思ったら	芦屋市消費生活センター	/ 兵庫県立消費生活総合センター	/ 国民生活センター
見守ってほしい	ヘルプマーク・ヘルプカード		
	認知症高齢者見守りシステム利用援助事業		
	認知症等高齢者GPS機器貸与事業		
	認知症高齢者見守り支援事業		
	認知症高齢者の見守り・SOSネットワーク事業		
	認知症高齢者個人賠償責任保険事業		

介護保険サービスについては、芦屋市高齢介護課発刊の「あしやの高齢者福祉と介護保険」をご覧ください。

I 認知症当事者の居場所づくり

【活動期間】

2024年5月～2025年3月
奇数月の第3金曜日に開催

【参加人数】

開催月によって、バラつきあり。
当事者が2～3名
ご家族が5～6名
専門職など関係者が7～8名

【結果・課題】

参加をしてくれる方々は定着をして来ているも、新たに参加して頂ける方は、なかなか来られない。

アンケート結果からわかるように、住民からの関心が高い一方で参加に積極的ではないため来年度以降に内容に関して修正を行っていく必要がある。

【具体的な取り組み】

・あしやの会に対して福祉フェア時に市民向け、居宅介護事業所の介護支援専門員向けにアンケートを実施。



市民からは、約30人より回答あり、半数以上が「あしやの会」に興味があり、自身や家族が認知症になった際は参加したいとの回答があった。

居宅介護事業所21事業所計66人より回答あり。そのほとんどが「あしやの会」を知っており、51人が「案内したことがある」と回答があった。しかしながら、案内をしたが参加に積極的ではないといった回答があった。

・他市の若年性認知症当事者の会の見学を実施

・あしやの会では、当事者の「したいこと」を中心に会話をを行い一緒に取り組めるスポーツや珈琲の入れ方、麻雀等を行った。



I 認知症当事者の居場所づくり

～ あしやの会@ふらっと ～

【活動期間】

令和6年12月より第2水曜日、コミュニティスペースふらっとにて開始
当事者の希望から月1回第2水曜日の毎月開催でスタートする

【参加人数】

第1回:2024年12月11日(水) 当事者:7名 ボランティア2名 スタッフ4名 計13名
第2回:2025年 1月8日(水) 当事者:6名 ボランティア2名 スタッフ4名 計12名
第3回:2025年 2月12日(水) 当事者:名 ボランティア 名 スタッフ 名



【具体的な取組】

- ・「自分たちがやりたいことができる」居場所として活動をスタート。
- ・自分たちで何でもやるを合言葉に当事者が主体的に活動参加できる場として支援
- ・「お昼ごはんプログラム」を実施。買い物から調理までをすべて自分たちで行い、参加者全員で昼食会(新年会)を行った



【結果】

- ・スタッフの運営支援だけでなくボランティアさんにも会の運営支援に関わってもらい、参加者全員が同じ立場で会を楽しむことが出てきた



【課題】

- ・細く長く、継続的な開催ができる体制づくりの検討(ボランティアの有償化等)
- ・市民(住民)への周知・広報活動、専門職に向けての発信



I 認知症当事者の居場所づくり

(2) 認知症当事者以外も含めた拠点づくり

【活動期間】

令和6年4月～令和7年3月

【参加人数】

令和6年度 第1回認知症カフェ連絡会(7/26) カフェ6件 12人
第2回認知症カフェ連絡会(12/25) カフェ4件 11人

【結果・課題】

- ・カフェの活動状況、困りごとなどを共有できた。
- ・認知症カフェと認知症地域支援推進員が共同で、
7月保健福祉フェア、9月「認知症月間」のライトアップ期間に啓発活動を行う予定。
- ・認知症カフェの場所の周知されていないため、認知症カフェチラシ改定時に地図の掲載を検討。
- ・認知症カフェ連絡会の運営、順番については次回以降 作成していく。

【具体的な取組】

- ・認知症カフェ連絡会を開催(7/26、12/25) ※次回 7月 福祉フェアまでに開催予定。
- ・認知症カフェチラシを製作、配布。



Ⅱ 認知症の人への支援体制構築に向けた関係機関との連携会議の開催

1. 若年性認知症ネットワーク会議の開催

【開催日時】 令和6年10月28日(月)13:30～15:30

【開催目的】

- ・若年性認知症に関する取り組みを共有し理解を深める
- ・個別ケースを通して各機関の関わりを検討・共有することで、個別支援の質を高める体制をつくる

【参加機関】

兵庫医科大学病院認知症疾患医療センター/仁明会クリニック認知症疾患医療センター/ひょうご若年性認知症支援センター/高齢介護課/地域福祉課/障がい福祉課/障がい者相談支援事業/障がい基幹相談支援センター/社会福祉協議会(第1層地域支え合い推進員)/高齢者生活支援センター(基幹的業務担当)/高齢者生活支援センター(認知症地域支援推進員)
参加者数:21名

【結果・課題】

会議開催時点では新たに把握した個別ケースがなく、既存の個別ケースを題材に個別支援会議とシステム検討会議を併せて行った。若年層への周知啓発の必要性、関係機関との連携等について意見交換、検討を行う中で見えてきた課題について、次年度以降取り組んでいく。今後も継続した会議開催を行うことで連携が図れるよう支援体制を構築する。



2. 若年性認知症啓発リーフレットの関係機関への配布

【具体的な取組】

各圏域で医療機関、イベント開催時等に住民に配布し、周知啓発活動を行った。

【結果・課題】

一目見て若年性認知症のリーフレットだとわかりにくい可能性があり、手に取ってもらいにくい。次年度は若年層へ啓発ができるよう医療機関以外の配布先も検討、リーフレットの改訂を行っていく。



Ⅲ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

【活動期間】

令和6年4月～令和7年3月

【対象】 芦屋市民

【結果】

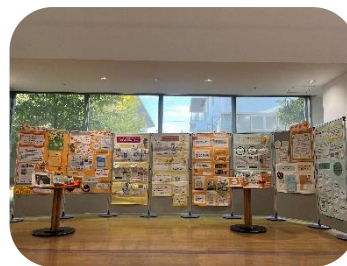
- ・福祉フェアでは、子育て世代などもクイズに参加。
認知症に対して関心が薄い世代への普及啓発が行えた。
- ・図書館では「福祉に関係のない場所」を訪れた方にもチラシや、
「あしや認知症ほっとナビ」を手にしてもらう機会となった。

【課題】

- ・今後 引き続き認知症について触れる機会の少ない方にも広く啓発し、
理解促進を進める機会や方法を考えていく必要がある。
- ・認知症の人 本人の声を起点とした普及啓発活動の展開の検討

【具体的な取組】

- ・7/13 福祉フェア 啓発パネル展示とクイズを実施。
- ・9月 「認知症月間」市庁舎のライトアップ。HP・広報を使い、普及啓発。
図書館で認知症に関する書籍展示・貸出、
認知症サポーター講座(9/18)も実施。
- ・6/3～ 6/27 市役所本庁1階展示スペース、
10/1～ 10/29 福祉センターで認知症パネル展を開催。
- ・3/1 ステップアップ講座開催



Ⅲ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

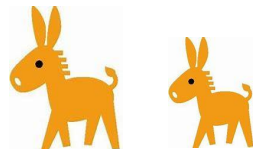
～ 市民(住民)向け 認知症講習会 ～ 「ちょっと気になる認知症を学ぶ」の開催支援

【活動期間】 令和6年7月13日(土) あしや保健福祉フェアのイベントとして実施

【参加人数】 約30名 (講師・スタッフ・途中退席者込)

【具体的な取組】

- ・精神科医 加藤先生による認知症に関する講演会の実施
- ・パネル展示も実施し、認知症啓発となるポスター類や認知症カフェのチラシ等を掲示し周知活動を実施
- ・認知症地域支援推進員の紹介と業務内容の説明(周知・啓発)を実施
- ・参加者に対するアンケートを行い、当事者の会「あしやの会」や認知症地域支援推進員への要望等を収集した



【結果・課題】

・アンケート結果より住民の認知症理解への関心度は高いことが確認できた



・認知症基本法にある「住民の理解の増進等」を積極的に推進する意味でも定期的な開催を目指すべく、その体制づくり継続的に行っていく

